

地域密着型金融推進計画の進捗状況(平成17年4月～19年3月)

新庄信用金庫

項目	具体的な取組み	進捗状況(17年4月～19年3月)
<b>1. 事業再生・中小企業金融の円滑化</b>		
(1) 創業・新事業支援機能等の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創業・新分野進出の情報源として、新庄バイオマスセンター及びその支援する市民組織と連携</li> <li>・「コミュニティビジネスローン」「NPOローン」のPRと促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新分野進出・新事業創出等に対する各方面との連携・情報の共有化や営業店の動きが、新規事業開発継続・新分野進出等に徐々に結びついている。実績は、「コミュニティビジネスローン」3件、「NPOローン」2件、「農業近代化資金」2件、「創業・新事業支援資金」15件</li> <li>数値目標:「創業・新事業支援等ローン件数」 18年3月実績累計 28件 19年3月目標累計 25件 19年3月実績累計 37件</li> <li>・社内BBSの活用による情報共有、顧客紹介運動を強化するため、ネットワーク上の社内掲示板機能の拡充を検討し、カテゴリーや進捗状況等のシステム追加として情報瓦版を導入。</li> </ul>
(2) 取引先企業に対する経営相談・支援機能の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元企業の認識を高めるためのフォーラムや勉強会を県・市と共に行う(会場として当金庫ホールを提供)</li> <li>・企業再生支援講座への参加、公認会計士による研修会の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県、山形大学地域共同研究センターが主催する企業向け勉強会「最上夜学」への会場提供・地元企業への参加呼びかけの継続。</li> <li>・審査担当者及び営業店融資担当者のスキル向上のため、公認会計士による研修会を開催。</li> </ul>
(3) 事業再生に向けた積極的取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な事業再生手法の活用として、中小企業基盤整備機構、地方自治体、県内各金融機関が協同して設立する、既存企業の第二創業、資金・業務支援を目的としたファンドの組成、活用を検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業界内主催講座(企業支援・再生支援「目利き」)への参加は、合計10名(17年度6名、18年度4名)。</li> <li>・山形県が創設を呼びかけた既存企業の第二創業、資金・業務支援を目的とした「チャレンジ山形産業振興投資事業有限責任組合(ファンド)」に出資。ファンドから取引先へ400万円出資決定。また同ファンドへ取引先2社紹介。また四半期報告会参加。</li> </ul>
(4) 担保・保証に過度に依存しない融資の推進等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「コミュニティビジネスローン」「NPOローン」のPRと促進</li> <li>・動産・債権譲渡担保融資(売掛債権担保融資)の事例を庫内研修等で情報共有し、その活用性を研究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実績は「コミュニティビジネスローン」3件、「NPOローン」2件</li> <li>・「個人保証に過度に依存しない融資に向けた取組み」として、信金中央金庫によるABLを含む動産・債権譲渡担保融資形態を取る設備担保信用補充制度「しんきんMEサポート」を導入した。</li> </ul>
(5) 顧客への説明態勢の整備、相談苦情処理機能の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苦情処理取扱規定及び営業店苦情対応の手引により、すでに体制の強化を行っており、現状の取組みを維持していく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・顧客への説明態勢の整備として融資担当者向けに「与信取引に関する顧客への説明マニュアル」について研修会実施。相談苦情処理機能の強化としては、改善策検討及び情報交換をコンプライアンス委員会で行い、預金・融資担当者研修会にて還元を継続。</li> </ul>
(6) 人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部研修の融資推進講座、目利き能力養成講座へ職員派遣</li> <li>・人材育成のための2級FP技能士程度の知識・経験修得努力に関しては、3.「地域の利用者の利便性向上」(3)「地域の利用者の満足度を重視した金融機関経営の確立を参照</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業界内研修参加は延べ人数40名(17年上期15名・下期6名、18年上期14名・下期5名)、通信講座人数156名。</li> <li>・同左</li> </ul>
<b>2. 経営力の強化</b>		
(1) リスク管理態勢の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己資本比率算出における分母要因対策として、貸出の小口分散化推進、3ヶ月以上延滞債権の軽減を図る</li> <li>・オペレーショナルリスクに関しては、基礎的手法を選択するための工程表を作成。過去3年間の粗利益を算出着手の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信用リスクについては「大口与信先の管理」「貸出の小口分散化」等に取り組み、信用リスクの計量化、データベースの構築等については引き続き業界内システムの活用を継続。またパーゼル全般に関し、業界内説明会に参加、庫内研修会を開催する等、態勢整備を進めた。</li> </ul>
(2) 収益管理態勢の整備と収益力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中小企業信用リスクデータベースの提供する財務指標平均値やデフォルト率等の統計情報を活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDBの提供する予想デフォルト率を取り定める格付のオプションシステムを導入。</li> <li>・投資信託窓口販売開始(現在取扱ファンド10銘柄)、融資新商品の開発。</li> <li>数値目標:「自己資本比率」 18年3月実績 13.70% 19年3月目標 13%以上を維持 19年3月実績 12.65%</li> <li>数値目標:「コア業務純益」 18年3月実績 488百万円 19年3月目標 396百万円 19年3月実績 545百万円</li> <li>数値目標:「預り資産に関する手数料収入」 18年3月実績 業務純益の7.6%(42百万円) 19年3月目標 業務純益の10% 19年3月実績 業務純益の6.9%(45百万円)</li> </ul>
(3) ガバナンスの強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常総代会の外に、総代との懇談会を検討</li> <li>・半期毎のディスクロージャーをディスクロージャー誌及びホームページにおいて開示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総代会、総代との懇談会、女性によるモニター懇談会、お客様感謝デー、商工会議所青年部会合にてアンケート調査を行った。また、結果をもとに「利用者意見等を踏まえて経営改善を行った項目等」としての取組みを検討、実施。</li> <li>・半期毎ディスクロージャーの内容充実に関して、新たにCSR進捗状況を加え、ディスクロージャー誌及びホームページにて開示。</li> </ul>
(4) 法令遵守(コンプライアンス)態勢の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報保護法を含めた、基本的な考え方や遵守基準を全職員に徹底周知</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンプライアンス責任者研修、各部店内研修をそれぞれ実施。</li> </ul>
(5) ITの戦略的活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入済の各システムを洗い直し、稼動状況を把握、現行システムの有効活用・活性化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社内BBSから、カテゴリー分類や進捗状況等の追加をした社内ネットワーク掲示板機能の新システム(情報瓦版)へ移行。また、「鍵管理システム」導入。</li> </ul>
(6) 協同組織中央機関の機能強化(市場リスク管理態勢)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有価証券リスクに関し金利・価格変動・為替リスクの分析・検討を行いリスク量の計量化に努める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新システム導入や、外部ツール等で市場リスク管理における相互牽制・リスク計量化等の管理手法高度化を行っている。</li> </ul>
<b>3. 地域の利用者の利便性向上</b>		
(1) 地域貢献に関する情報開示	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CSR(企業の社会的責任)の観点を踏まえた情報開示の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CSR(企業の社会的責任)の観点を踏まえた地域貢献に関する内容を、18年7月に法定ディスクロージャー誌、18年11月に半期ディスクロージャー誌内に盛り込み開示。また、同時にインターネットでも開示。</li> </ul>
(3) 地域の利用者の満足度を重視した金融機関経営の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2級FP技能士資格取得率を高め、顧客(個人や小規模事業者)に対する個人資産相談業務及び資産設計提案機能の提供ができるよう、知識・経験の習得推進を行う。また、税理士、社会保険労務士等、専門家による勉強会、職員自身による勉強会開催</li> <li>・「顧客モニター制度」の検討、実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人や小規模事業者に対するファイナンシャルプランナー機能提供のための税理士、社会保険労務士等の専門家によるFP勉強会を継続。また、日本ファイナンシャル・プランナーズ協会のAFP資格とCFP資格取得に向けた取り組みも継続。</li> <li>数値目標:「FP技能士資格取得率(総合職に該当する職員数比)」 18年3月実績 55.2% 19年3月目標 60% 19年3月実績 70.8%</li> <li>・「顧客モニター制度」におけるモニター懇談会を2回実施。</li> </ul>
(4) 地域再生推進のための各種施策とその連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域再生のための当金庫独自の商品を検討</li> <li>・地域再生推進のための各種施策とその連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当金庫独自の取り組みとして、1歳未満の子供を持つ世帯に対し「出生記念樹・ブルーベリーの苗木」のプレゼントを開始し、18歳以下の子供を2人以上持つ世帯に対し「多子家族応援定期」はぐくみ、を発売。</li> <li>・地域活性化に向けた地域と一体となった取組みとして、18年5月、経済産業省中小企業庁「がんばる商店街77選」のアイデア商店街30事例の中のひとつに選定された「100円商店街」においてイベントスペースとして本店駐車場を提供。</li> </ul>